

金剛萱遺跡の旧石器文化4—2017・2018—

Palaeolithic Culture of the Kongokaya site 4, 2017・2018

金剛萱遺跡研究会^{*1}

Kongokaya site research group

キーワード：旧石器時代，石器，発掘，無斑晶質安山岩，八風山安山岩

Key words : Palaeolithic, stone tool, excavation, aphyric andesite, Happusan andesite

はじめに

- 1 本稿は，金剛萱遺跡における旧石器時代の遺跡調査に関わる報告書であり，2017年から2018年分までをまとめたものである。
- 2 調査は，金剛萱遺跡研究会が下仁田町教育委員会の指導・協力を受けて実施した。
- 3 本書は，調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に，基礎資料を提示することに重点をおいた。
- 4 本稿の編集・執筆は，中村由克，麻生敏隆，須藤隆司が担当した。
- 5 調査によって出土した諸資料は，下仁田町自然史館で保管している。

発掘地（林道地点）は2011年5月に大露頭より1段高い緩傾斜地の中で，下仁田ローム層上部層まで削られた切り通しの作業道で発見された。2011年～2013年の発掘成果は，下仁田町自然史館研究報告第1号（金剛萱遺跡研究会 2016）に，2015年～2016年の発掘成果は，下仁田町自然史館研究報告第2号（金剛萱遺跡研究会 2017）に報告した。2017年4月（第6回）と同年10月（第7回）の発掘調査の成果は下仁田町自然史館研究報告第3号（金剛萱遺跡研究会 2018）に報告した。本報告は，2018年4月28日～4月30日（第8回）と同年10月27日・28日（第9回）の発掘調査の成果を記載する。なお，前回報告（第6回・第7回）では遺物の詳細な記載ができなかったので，本報告に含めて報告する（第1表）。

調査の経過

金剛萱遺跡は2007年8月にその存在が知られ，2009年4月に遺跡であることが判明し，金剛萱遺跡研究会が結成された。2009年11月の調査で旧石器時代から縄文時代の遺物散布地が広がっていることが推測され，下仁田町教育委員会が金剛萱の北麓の平坦な緩傾斜地から山頂まで含めた範囲を金剛萱遺跡として埋蔵文化財包蔵地に登録した。

遺跡の環境

下仁田町は地質上，西南日本と東北日本の接点にあたり，ほぼ東西方向に中央構造線がとおり，その一部分である大北野一岩山断層より南側には，三波川帯の結晶片岩，御荷鉾緑色岩類，跡倉ナツプおよび秩父帯などの古期岩類がつくる山地が分布し，金剛萱の山頂から遺跡のある緩傾斜地は秩父帯にあたる。

2019年2月22日受付。2019年2月24日受理。

*1 事務局：〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館 中村由克 気付
c/o Yoshikatsu Nakamura, Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun,
Gunma, 370-2611 Japan (naka-m@opal.plala.or.jp)

第1表 金剛萱遺跡林道地点の調査経過

回	期 間	人数(人)	出土点数(点)	人工品(点)	おもな出土品
第1回	2011.9.23-25	17	21	10	石斧調整剥片, 剥片
第2回	2014.11.22-24	21	11	4	局部磨製石斧, 剥片
第3回	2015.11.21-23	37	10	6	切断面を有する剥片, 石斧調整剥片, 剥片
第4回	2016.4.29-5.1	21	12	10	剥片
第5回	2016.10.29-30	9	7	5	石核, 剥片
第6回	2017.4.28-30	17	16	15	剥片
第7回	2017.10.28	6	5	5	剥片
第8回	2018.4.28-30	25	23	19	切断面を有する剥片, 剥片, 碎片
第9回	2018.10.27-28	8	2	2	切断面を有する剥片, 剥片
	期 間	人数(人)	場 所	主な調査内容	
調査	2015.4.11-12	27	金剛萱	試掘調査, ハンドオーガー調査, 地すべり調査	
	2017.9.23-24	9	馬山, 町内	遺跡分布調査, 段丘分布調査	

調査地の金剛萱は鎗川支流の青倉川東にそびえる標高 788 m の独立峰で、山頂のすぐ北側には緩傾斜地が広がっている。今回の発掘地である林道地点は、2か所の畑地（コンニャク畑地点）よりさらに高い場所にある平坦な場所である。東西方向に延びる金剛萱の山頂部の北斜面が、大規模地すべりが原因で急斜面となっている（大規模地すべり研究会 2016）が、その斜面直下に広がる平坦地の一角に当たる（第1図・第2図）。

下仁田地域で遺跡が多く立地するのは、鎗川右岸の馬山丘陵である。下仁田 IC の場所にある下鎌田遺跡から南西に長尾根遺跡、観音寺原遺跡、富士塚遺跡、^{べいさん}米山遺跡など縄文時代と古代を中心とする遺跡がほぼ連続的に分布する。下鎌田遺跡と米山遺跡では発掘調査時に旧石器時代の遺物も少量ではあるが出土している。富岡市域にあたる鎗川左岸や丹生川流域にも縄文や平安時代の遺跡が散在する。現在までに下仁田町では、旧石器時代の遺跡は金剛萱遺跡と下鎌田遺跡、米山遺跡の3か所が知られている。

金剛萱遺跡林道地点の調査

1 調査地の状況と調査の概要

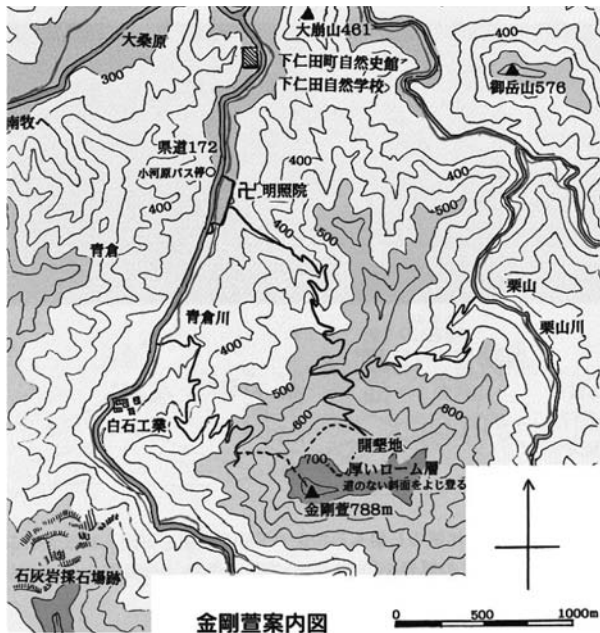
発掘地（林道地点）は、下仁田町大字青倉金剛萱1031番地にあり、針葉樹の植林のなかにある。広いコンニャク畑（コンニャク畑地点）より南側にあ

り、未舗装の作業道の敷地である。この場所では作業道は原地形をかなり削って通っていて、道路面は掘削された場所で、ローム層が露出している。したがって、道路面をそれほど掘削しなくとも目的とするAT層前後の暗色帯が調査できる状況となっていた。

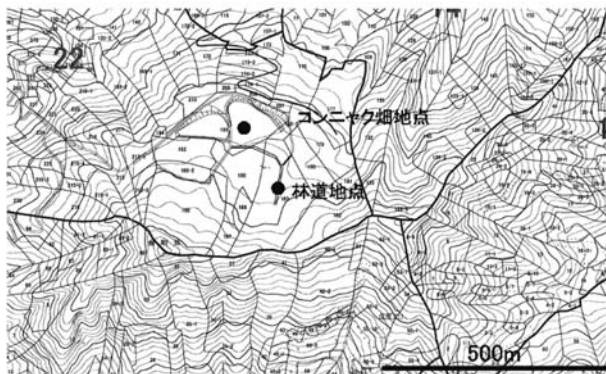
発掘地における地質層序は、地表からかなり削平されている状態で、上位より5 cm黄褐色ローム層、5~14 cm褐色軽石層（浅間板鼻褐色軽石：BP）、20 cm黄灰色ローム層、13 cm赤褐色軽石層（浅間室田軽石：MP）、40 cm+黄褐色ローム層という層位である。最下位のローム層では、MP直下から10 cmほどのゾーンには火山ガラスが含有され、AT層準であることがわかる。AT層準から下部の数10 cmは色調がやや暗い暗色帯になっている。剥片等の遺物は、このATから下位の層準付近から出土している（金剛萱遺跡研究会 2017；関東火山灰グループ 2009）。

2 林道地点の調査経過

第8回発掘（2018年4月28日-30日）：作業道がローム層まで削って作られている場所に、道路部分にそってほぼ南北方向の調査区を設定。2017年までの発掘地の北東部の未発掘地1 m×1 mを拡張し、また南西部を2 m×1 mを拡張し、D6・D7グリッド、E5~E7、F5~F7グリッドのなかに4 m×5 mの範囲内を調査した。掘削はすべて手掘りで、



金剛萱案内図



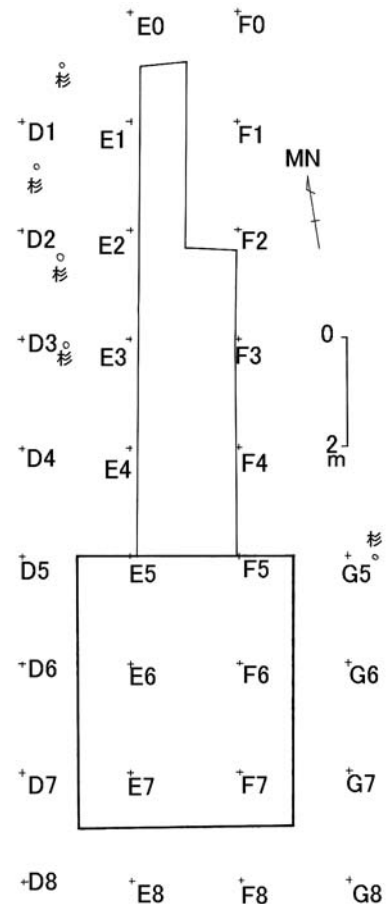
第1図 金剛萱遺跡林道地点の位置
下図は金剛萱山頂付近の拡大図

遺物包含層が予測される暗色帯を掘りきるまで、遺物包含層の掘り残し部分を掘削し、無斑晶質安山岩の剥片類が集中して出土した。

第9回発掘 (2018年10月28日) : 第8回の調査区の北西部の未発掘地 1 m × 1 m を拡張し、全体を掘り進めた。無斑晶質安山岩製の剥片が出土した。

3 旧石器時代の遺物

金剛萱遺跡林道地点の第6回発掘調査で出土した資料は、総数16点である。第7回の発掘調査で出土した資料は、総数5点である。すべて無斑晶質安山岩製である。第8回発掘調査で出土した資料は、総数23点で表2の25 (87), 27 (89) ~ 29 (91) の4点以外



第2図 第6回～第9回発掘グリッド位置図

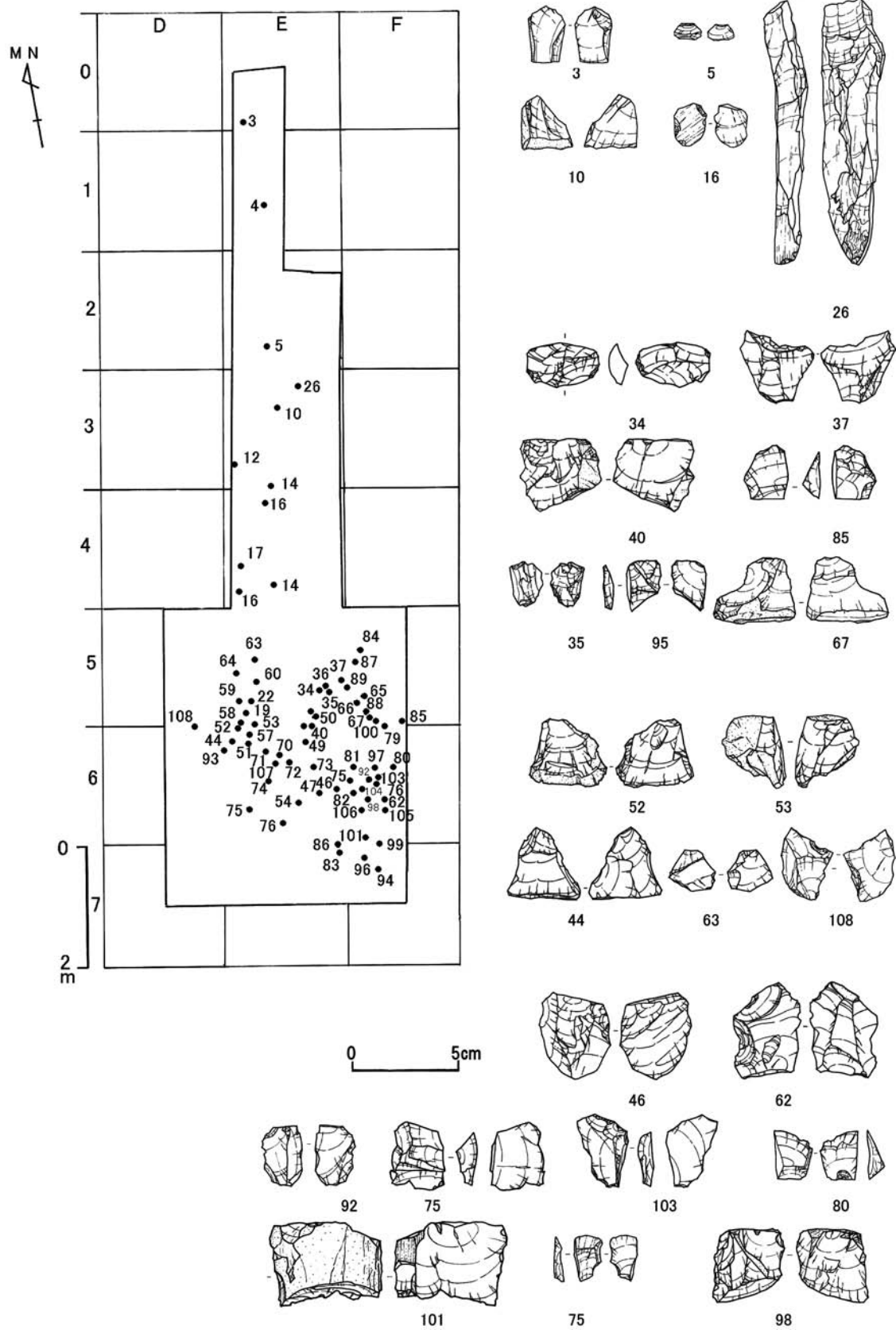
は無斑晶質安山岩製である。さらに、第9回発掘調査で出土した資料は総数2点で、無斑晶質安山岩製である。

以下は第6回～第9回の発掘調査で出土した主要な遺物を記載する (第4図1～13)。

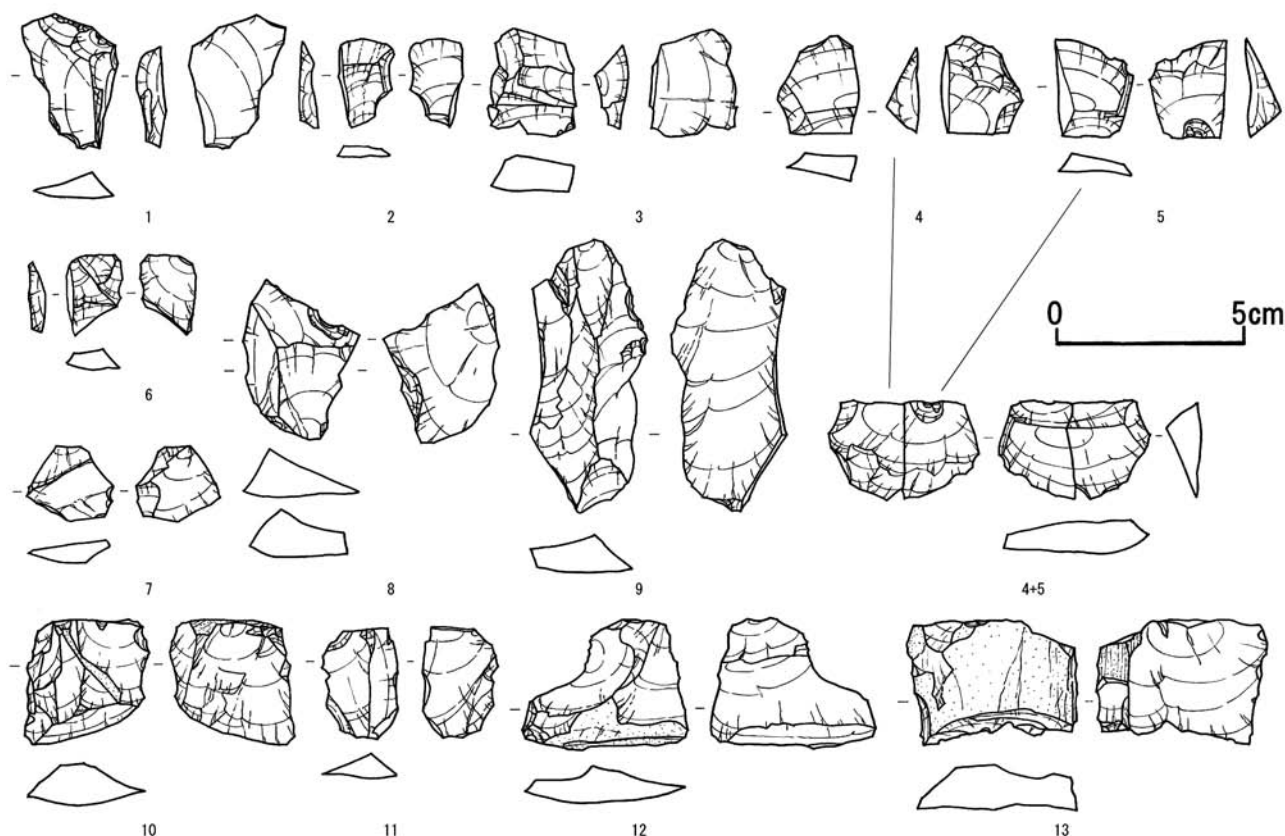
1～6は切断面を有する剥片である。いずれも鋭い縁辺を有している。1は剥片を分割した末端側である。元の剥片の側縁に調整がおこなわれていて、刃部を形成している。切断された面は主剥離面から力が加わっている。

2は小さな剥片を分割し、ばち形を呈する切断面を有する剥片である。

3は縦長の剥片を分割した切断面を有する剥片である。



第3図 金剛萱遺跡林道地点の石器分布図



第4図 第6回～第9回発掘出土遺物の実測図

4, 5はやや横長の寸詰まり剥片を2分割してできた切断面を有する剥片である。4は分割後に鋭い縁辺の一端に調整で整形されている。5は主剥離面の打瘤の位置に浅い調整が入れている。

6はやや幅広な剥片を分割した切断面を有する剥片である。

7は小さな幅広剥片である。背面の右下半に小剥離痕2面が認められ、また主剥離痕の左下部にも調整が入れている。

8は厚手の幅広剥片である。打面を背部として利用し、元の剥片縁辺を刃部とし、やや大きめの剥離痕がみられる。主剥離面の末端側に浅い調整が入っており、台形様石器ともみられる形態である。

9は小さい打面を残すやや不定形な縦長剥片である。

10～13は剥片である。10は自然面を打面とする厚手で寸詰まりな剥片である。背面右側縁には小剥離痕が2面みられる。

11は自然面を打面とする小剥片である。

12は背面下部と底面に自然面を残す寸詰まりの剥片である。

13は打面と背面に自然面を残す厚手の幅広剥片である。

いずれも節理面を思わせるような流理構造をもち、風化色は黒灰色で、新鮮面は黒色ち密な無斑晶質安山岩であり、八風山産と推定される。

おもな遺物の出土層序はATより下位の暗色帯中で、年代は約3.8～2.9万年前、群馬編年のI期からII期にかけての時期（小菅ほか 2004）、武蔵野編年のX層からVI層にかけてと比定される

金剛萱遺跡第8回・第9回発掘調査の意義

林道地点第8回・第9回発掘では、第7回までに調査していた場所を掘り下げた。前回に引き続き、暗色帯中の無斑晶質安山岩の剥片を中心とするブロッ

第2表 金剛萱遺跡・林道地点第6回～第9回発掘出土の遺物一覧

No	図版番号	遺物番号	名称	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量 g	深度cm
1	7	KON1704-63	剥片	無斑晶質安山岩	21.2	23.6	7.6	2.9	173.5
2		KON1704-64	碎片	無斑晶質安山岩	8.3	13.4	5.6	0.5	176
3		KON1704-65	碎片	無斑晶質安山岩	10.7	12.9	2.1	0.3	134
4		KON1704-66	剥片	無斑晶質安山岩	17.8	13.7	3.8	0.7	131.5
5	12	KON1704-67	剥片	無斑晶質安山岩	36.5	44.6	13.5	14.1	132
6		KON1704-68	碎片	無斑晶質安山岩	9.9	16.1	3.3	0.5	135.5
7		KON1704-69	剥片	無斑晶質安山岩	20.5	20.3	6.8	2.5	161.5
8		KON1704-70	剥片	無斑晶質安山岩	20.4	9.0	6.6	0.9	169
9		KON1704-71	剥片	無斑晶質安山岩	38.0	31.6	22.0	21.9	171.5
10		KON1704-72	碎片	無斑晶質安山岩	9.5	9.1	3.2	0.2	163
11		KON1704-73	剥片	無斑晶質安山岩	15.6	19.9	5.1	1.1	160
12		KON1704-74	剥片	無斑晶質安山岩	18.2	12.9	4.5	0.8	168
13	3	KON1704-75	切断面を有する剥片	無斑晶質安山岩	30.1	26.5	11.2	7.8	116
14		KON1704-76	剥片	無斑晶質安山岩	31.7	22.0	9.4	5.0	123.5
15		KON1704-77	碎片	無斑晶質安山岩	11.0	5.7	2.2	0.05	172.5
16		KON1704-78	碎片	無斑晶質安山岩	5.5	4.3	1.3	0.01	162
17		KON1710-79	剥片	無斑晶質安山岩	22.2	18.4	15.3	5.7	132
18	5	KON1710-80	切断面を有する剥片	無斑晶質安山岩	26.7	22.1	9.5	4.2	129.5
19		KON1710-81	剥片	無斑晶質安山岩	25.0	26.3	9.4	4.4	138
20		KON1710-82	碎片	無斑晶質安山岩	7.0	5.5	2.4	0.5	134.5
21		KON1710-83	剥片	無斑晶質安山岩	20.0	29.6	9.9	5.0	115
22	9	KON1804-84	縦長剥片	無斑晶質安山岩	74.9	33.4	11.1	26.0	124
23	4	KON1804-85	切断面を有する剥片	無斑晶質安山岩	27.3	22.7	9.6	5.7	126.5
24		KON1804-86	剥片	無斑晶質安山岩	29.1	13.3	5.9	20.0	144
25		KON1804-87	剥片？	緑色岩	47.4	31.6	16.2	23.0	145
26		KON1804-88	剥片	無斑晶質安山岩	14.8	19.5	3.6	1.0	147
27		KON1804-89	剥片？	緑色岩	21.7	19.3	4.8	2.5	149
28		KON1804-90	石片	緑色岩	42.1	19.5	8.2	4.8	163
29		KON1804-91	石片	緑色岩	36.4	15.9	14.9	8.0	146
30	11	KON1804-92	剥片	無斑晶質安山岩	31.1	20.8	6.6	3.7	147
31		KON1804-93	剥片	無斑晶質安山岩	29.2	27.9	12.0	7.9	149
32		KON1804-94	剥片	無斑晶質安山岩	25.6	15.0	7.7	1.8	146
33	6	KON1804-95	切断面を有する剥片	無斑晶質安山岩	18.3	24.4	5.9	2.2	166
34		KON1804-96	剥片	無斑晶質安山岩	16.3	21.2	6.8	1.8	152
35		KON1804-97	剥片	無斑晶質安山岩	19.2	21.3	5.3	2.2	148.5
36	13	KON1804-98	剥片	無斑晶質安山岩	46.0	34.3	12.7	23.5	150.5
37		KON1804-99	剥片	無斑晶質安山岩	28.5	14.1	10.2	5.4	150.5
38		KON1804-100	剥片	無斑晶質安山岩	35.3	30.1	14.3	10.9	153
39	2	KON1804-101	切断面を有する剥片	無斑晶質安山岩	24.7	16.5	4.8	1.3	153
40		KON1804-102	剥片	無斑晶質安山岩	18.2	10.7	5.5	0.7	154
41	1	KON1804-103	切断面を有する剥片	無斑晶質安山岩	37.0	27.2	7.2	5.5	155
42		KON1804-104	剥片	無斑晶質安山岩	20.5	16.3	8.7	2.8	156
43	10	KON1804-105	剥片	無斑晶質安山岩	37.1	32.6	12.8	16.6	152
44		KON1804-106	剥片	無斑晶質安山岩	16.7	21.0	7.4	1.4	156
45		KON1810-107	剥片	無斑晶質安山岩	36.8	34.5	19.5	22.0	172
46	8	KON1810-108	剥片	無斑晶質安山岩	40.3	32.4	14.2	12.1	180

クである。このブロック内の遺物は、無斑晶質安山岩が圧倒的に多いこと、打面調整があまり行われず、平坦打面によるやや厚めの幅広ですづまりの剥片剥離がおこなわれていること、定型的な石器完形品はなく、剥片等が中心であることなどの特徴がみられる。今のところ、接合関係は1組判明しただけであり、また、石核を保有しないことは特徴的である。このことは、この石器群が剥片剥離の初期段階のものではなく、鋭い縁辺部を持つ利用可能な剥片を集めたものが多く、剥片を切断加工して台形様石器のような用途として利用したものを組成すると思われる。

第2回発掘では、本ブロックから約 5 m 北側の E3グリッド北部より局部磨製石斧が出土している。石斧はブロック外の単独出土であるが、今回の無斑晶質安山岩製石器群と同時期のものと考えられる。したがって、林道地点で出土した石器群は局部磨製石斧と台形様石器としての機能を有する「切断面を有する剥片」に代表され、後期旧石器時代前半期の初期の所産と考えられる。

金剛萱遺跡林道地点の石器群は、岩宿遺跡（岩宿 I 石器文化）と同じ時期にあたり、群馬県西部から長野県東部では、甘楽町（甘楽 SA）の白倉下原遺跡、天引向原遺跡や安中市の古城遺跡、佐久市八風山遺跡群、立科 F 遺跡などこの時期の良好な石器群が知られている。金剛萱遺跡は地理的にはこれらの中間を埋める位置にある。金剛萱遺跡は、標高 680 m 以上の独立峰の高い山の山頂近くに立地しており、このような場所ある後期旧石器時代前半期の遺跡は珍しい存在である。なぜこのようなところに遺跡があるのかは、今後とも究明すべき課題である。

（要 旨）

金剛萱遺跡研究会（2019）金剛萱遺跡の旧石器文化4-2017・2018-。下仁田町自然史館研究報告，4，37-44。

下仁田町青倉の金剛萱遺跡林道地点で、2017年に2回、2018年に2回の発掘調査を行なった。この発掘で後期旧石器時代前半期の剥片などの石器が出土した。剥片は切断加工されたものなど、この時期に特徴的な台形様石器としての機能をもつと推定される。八風山と推定される無斑晶質安山岩を主な石材としている。

謝 辞

発掘調査にあたって下仁田町と地主の泉 英明氏に多大なご協力をいただいたことをお礼申し上げる。

文 献

- 大規模地すべり研究会（2016）地すべりによる金剛萱遺跡の平坦面形成。下仁田町自然史館研究報告，1，25-36。
- 関東火山灰グループ（2009）群馬県甘楽郡下仁田町でみつかった下仁田ローム層の砂粒組成。群馬県立自然史博物館研究報告，13，87-93。
- 金剛萱遺跡研究会（2016）金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化。下仁田町自然史館研究報告，1，1-20。
- 金剛萱遺跡研究会（2017）金剛萱遺跡の旧石器2-2015・2016-。下仁田町自然史館研究報告，2，51-58。
- 金剛萱遺跡研究会（2018）金剛萱遺跡の旧石器3-2017-。下仁田町自然史館研究報告，3，23-26。
- 金剛萱遺跡研究会「下仁田自然学校文庫8」編集委員会編著（2014）金剛萱に旧石器時代をさぐる-金剛萱遺跡と下仁田ローム層-。下仁田自然学校文庫8，56p。
- 小菅将夫・大工原豊・麻生敏隆（2004）群馬の旧石器。みやま文庫，175p。

発掘調査参加者

2018年春の調査（2018年4月28日-30日）

麻生敏隆，石関珠美，磯貝千恵，今井 洋，今井よし子，岩井裕子，岩崎 均，岩崎 拓，岩崎正春，神戸百合子，久保田郁夫，小林忠夫，須藤隆司，関谷友彦，寺尾真純，中川知津子，中島嘉江，中塚博子，中村由克，深沢科子，深沢哲司，増岡慎弥，間室英和，間室幸仁，渡邊貴紀

以上25名

2018年秋の発掘（2018年10月27日・28日）

麻生敏隆，岩崎正春，小林忠夫，関谷友彦，寺尾真純，中村由克，深沢哲司，渡邊貴紀

以上8名



写真図版 金剛萱遺跡出土の石器 上：表面 下：裏面